開幕1軍へ二塁チャレンジ

中日のドラフト2位、京田陽太（22＝日大＝が9日、俊大な先輩を完全コピーした。ナゴヤ球場での練習で、二塁でノックを受ける荒木雅博内野手（39）を見な がらシンクロ。お手本の動きを体に染み込ませた。オープン戦では打撃も上々。本職の遊撃以外でも可能性を広げていけば、目指す開幕1軍も近づく。

打撃好調!!

出番のチャンス広げる

京田 荒木をコピー

【写真上下】本職の遊撃以外でも試合に出るぞ!!　ノックを受ける二塁・荒木（手前）の動きを見てまねる京田＝ナゴヤ球場で（篠原麻希撮影）

2人の動きは一糸乱れない。二塁で軽快に打球を捕って投げる荒木。その3、4歩ほど後ろで、京田がそっくりまねる。およそ10分のエアーノック。ルーキーは「体の軸はぶれないし、ボールに向かうのも速い。生きた教材を見させてもらいました」と濃密な時間を振り返った。

さらに直接のアドバイスも。併殺プレーで遊撃に送球する一連の動作で「体が開きすぎている」と言ってもらいました」。本職の遊撃とは反対の動き。即席で塁を開けるということじゃないし、やっていきながらだね」と笑顔で話した。

コピー指示を出したのは総脳内野守備走塁コーチ。荒木が1軍に合流した3日にノックを打った際に「あらためていい動きをするな」と感心したという。名手から学ぶ点として「ボールまでの距離をいかに早く詰められるか。一歩目の動きだし の部分」と練習の意図を説明した。

京田はオープン戦の3試合で二塁を経験。前日8日の巨人戦（岡崎）では、野球人生で初めて三塁を守った。「試合に出られる機会も増えるので、できるに越したことはない」。三塁にはゲレーロ、遊撃には堂上、そして二塁には当の荒木らがいるとはいえ、果敢に挑んでいく。

守備に比べて自信のなかった打撃でも、20打数6安打の打率3割、3打点と順調。「直球待ちで変化球に対応できるようにもなった。アウトのなり方も良くなっている。「真似（まね）ぶ」とも。目いっぱい吸収し、1軍の座を手中に収める。（小西亮）

二塁打も記録。なぜか三塁を回って本塁まで走ったことを問われると「打った経験が少ないので、とりあえず回っておけば間違いないかと思った」と頭をかいた。

開幕まで残り12試合。「これだけ試合に出させてもらっているので、チャンスを生かさないといけない」と気を引き締める。「学ぶ」の語源は「真似（まね）ぶ」とも。目いっぱい吸収し、1軍の座を手中に収める。（小西亮）

名手からアドバイス「生きた教材見させてもらった」

森野 土井道場に入門

OP戦不振「いろんな人に聞く時期」

上下の連動できていない!!

森野将彦内野手（38）が土井（岡崎）では3回1死満塁の道場に入門した。全体練習後、土井打撃コーチとともに屋内練習場へ。約40分間、つきっきりでのティー打撃を行った。森野はオープン戦ここまで6試合に出場し、12打数無安打1四球。8日の巨人戦チャンスで二ゴロ併殺打に倒れるなど、打撃の状態が上がらないままだった。

そこでこの日「今まで自分でやってきたけど、今はいろんな人に聞く時期でもある」と、数々の強打者を育てた土井コーチにアドバイスを求めた。名伯楽は「トップの位置で割れていない」と上半身と下半身がうまく連動できていない点を指摘。そのうえで「私の感性もあるし、彼の感性もある。早打ちやバスターなどいろいろやってみて、感じてくれれば」と、ベテランが培ってきた野球観も被せつつ、復調を手助けする考えを語った。

全体練習中には長島外野守備走塁コーチからも左肩の動きなどを指摘された。「言われるということは何かがズレているということ。いいときの打撃に戻していかないといけない。そんなに時間はない。きっかけをつかむなら早い方がいい」と森野。危機感をにじませつつ、復調を誓っていた。（宮嶋厚志）

土井打撃コーチ㊧に打撃指導を受ける森野＝中日ドラゴンズ屋内練習場で（金田好弘撮影）